

奈良県放課後児童対策推進委員会 概要

- 日 時：令和2年8月28日（金）9：30～11：30
- 場 所：奈良県庁分庁舎 第51会議室
- 議 題：放課後児童クラブと放課後子ども教室の現状について
放課後児童支援員の確保と資質向上について
学校との連携について
- 出席者：岡田龍樹委員長、菊池由利委員、澤和七委員、畑香委員、
春山真美委員、細田七海委員、森永晃委員（五十音順）
- 傍聴人数：なし
- 議事概要：

<開会挨拶>・・・金剛こども・女性局長より挨拶

<議事>

<定足数報告>・・・委員7名出席（1名欠席）

<新委員紹介>・・・事務局より別添委員名簿に基づき、新委員を紹介

<事務局より資料説明>

・・・資料1（人権地域教育課）、資料2（奈良っ子はぐくみ課）

主な意見については以下のとおり

<オンラインでの研修・情報交換について>

【畑委員】

「放課後児童支援員認定資格者研修」や放課後児童クラブ職員を対象とした資質向上研修において、今般の新型コロナウイルス感染症の影響で研修に参加する際の感染リスクを懸念する声が挙がっているが、オンライン研修の活用は検討していないのか。

【事務局】

対面の講義において、質問やディスカッションをスマートフォンで入力しスクリーンに映し出すアプリの活用は検討している。オンライン講義を行ううえでは、受け手側のハード面（パソコン、Wifi等）の環境が整っているとはいえず、どのように実施するのが課題である。

【畑委員】

感染症の影響がなくても、県南部から研修に参加するのは大変。今年度は補正予算でWeb環境の整備に対する補助金が出ているので、この機会に補助金

を活用して環境を整え、オンラインでも研修の受講や指導員同士の意見交換の場を設けることが必要。

【岡田委員長】

研修の参加意義には、専門的な知識が得られるという面だけでなく、現場で働く指導員同士で情報交換ができるという面もあるが、それについて何かご意見をいただきたい。

【畑委員】

指導員の仕事は子どもの見守りだけでなく、子どもや家庭の問題、アレルギー、保護者対応など多様な問題を抱え、専門的な知識も要する。働き始めてからその大変さを知り辞職する人も絶えないが、同じような状況で働いている人たちの意見を聞ける場があれば助けになる。

【細田委員】

他のクラブの様子を知ることで刺激を得られ、モチベーションにもつながる。向上心や続けたいという気持ちを維持するうえでも、研修や情報交換の場はとても貴重。

【岡田委員長】

学童保育連絡協議会がそのような役割を果たせるのではないか。

【畑委員】

連絡協議会はもちろん、保護者会のない市町村が多い。現場の声が行政に届きにくいので、現場の思いと行政の働きかけが乖離しやすい状況。

<資質向上研修について>

【細田委員】

県では放課後児童クラブの職員を対象とした資質向上研修を行っているが、各市町村で独自に研修を実施しているところもある。実態を把握しているか。

【事務局】

内容までは把握していないが、実施の有無については調査しており、全く実施できていない市町村もある。

【細田委員】

もともと養成講座も無かったため、新任の指導員がどのように仕事を教わるか、という点ではクラブによって差ができています。指導者集団を対象とした研修も必要。

【岡田委員長】

県でも今年度はリーダー育成のための研修を実施予定。

【細田委員】

リーダーの立場にある人は、責任が重いにも関わらず処遇がいいとはいええない状況。リーダーを育成して層として確立させることで、処遇改善にもつなげていきたい。

【畑委員】

リーダーだけでなく、運営主体に対する研修も必要性がある。県内には民営のクラブもあるが、運営側に学童保育に対する知識がない中で現場の指導員が不利益を被るような事例も耳にしている。運営主体側が指導員をひとつの専門職として認め、それなりの処遇を構築した上で子供たちの成長に関わるという思いを持たないと、処遇改善・資質向上は望めない。

【事務局】

県では、研修以外でサポートする方法も検討しており、来年度に巡回サポート事業を実施予定。アドバイザーを派遣し、各クラブを巡回して指導や相談に乗るといったサポートを考えている。

【岡田委員長】

今ある問題の底上げをはかるには、学童保育が多くの子どもの家庭の役に立っているという認知を広げるべき。そのためにモデルとなるような放課後児童クラブを設定して取り組みを紹介していくなど、クラブ側からの発信も必要。

【春山委員】

保護者の中には、面倒さえ見てくれたらいいと思っている人も少なくない。子どもたちの居場所としてどのような環境がふさわしいのか、保護者も考えるべき。

【岡田委員長】

家庭での子育ての悩みと、学童保育での悩みは同じはず。学童保育で専門的な知識を有していれば、そこから一般家庭へ知識が広がっていくのだから、学童の専門性を高めることは非常に重要。

【畑委員】

学校が学びの場であるのに対し、学童保育は生活の場。本来なら家庭で過ごす時間を大人が共有出来ないので、親の代わりにしているのが指導員。学校側が子どもたちの情報を保護者に伝えるのと同じように、学校や地域と学童が連携できるといい。

【菊池委員】

情報共有といっても、児童一人ひとりについて学童に来る日かどうかというのを把握するのは難しい。一方で、ある情報が伝わらないと子どもの命に関わることもある。個人情報扱う立場として、指導員の関わり方・情報共有の仕方は課題が残る。

【森永委員】

学校側の立場としても、学童での様子を共有したいところではあるが、学童保育を利用する児童が年々増加するなかで、すべての児童に配慮するのは難しい。

【澤委員】

香芝市では運営を指定管理業者に委託しているが、そのように間に入る存在があると上手く連携できていると感じる。

【菊池委員】

奈良市では、退任された校長先生が各クラブを回って保護者との調整や支援員との連携をしている。現場経験のある方が間に入ることで支援員も安心できる。

【岡田委員長】

現場の間をケアする中間支援の存在が必要ということ。

【菊池委員】

子どもにとっても、先生と親以外の大人が自分の生活に関わってくれるということが後に大きな財産になるはず。

【岡田委員長】

学童を理解していただく情報発信は必要。モデルクラブを指定し、インターン等も積極的に入れていき、認知を広げていけたらいい。

【菊池委員】

奈良市では地域コーディネーターとの連携も検討している。地域支援として子どもたちを見守っている存在が加わることで、学校とクラブ間の連携だけでなく人権強化にもつながるのではと考えている。